Do your work faster

便利ツールで作業効率UP!

書庫の解凍・作成や画像の閲覧やファイルのリネームなど日常的な作業に役立つ実用的なツールを追加しよう！

GNOMEデスクトップ環境には機能性に優れた各種ツールが標準でインストールされている。しかし、「もうちょっと機能があれば」、「もう少し動作が速ければ」、と思うこともある。

ツールに機能が不足している場合は代わりにコマンドライン端末から作業することで解決できることも多いが、やはりGUIで操作できるほうが使いやすい。

この特集では標準のツールよりも機能豊富なものや動作速度が良好なツール及びGUIで使える便利なツールを紹介する。標準ツールの代わりに利用して作業効率を高めてみよう。

A●高度な書庫ファイルを作成したい→PeaZipで作成

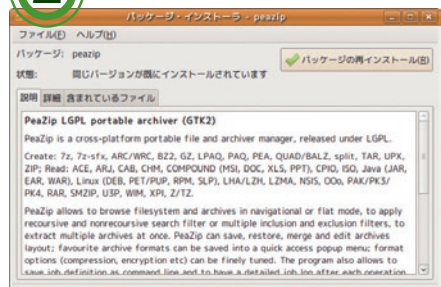
PeaZipアーカイバ

PeaZipはZIP、7Z、GZ、BZ2、TARなど主要な書庫形式への圧縮、81種類の書庫形式の解凍に対応したアーカイバ。

書庫の圧縮率、ファイルサイズでの分割、書庫の暗号化、自己解凍書庫などのオプションを指定して書庫ファイルを作成可能だ。

PeaZip
作者名●Giorgio Tani
URL●http://peazip.sourceforge.net/

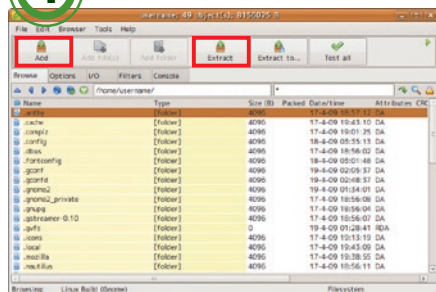
① サイトからダウンロード

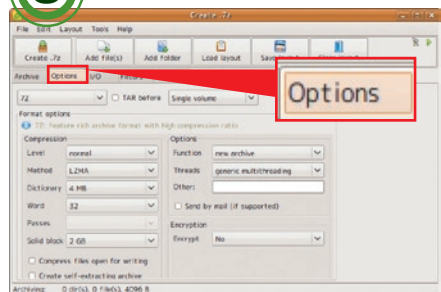
http://peazip.sourceforge.net/からディストリビューションのパッケージをダウンロード

② パッケージをインストール

ダウンロードしたパッケージをダブルクリックして起動したパッケージインストーラからインストール

③ メニューからPeaZipを起動

インストールするとメインメニューの「アプリケーション」→「システムツール」→「PeaZip」から起動できる

④ 圧縮ファイルを作成

メニューバーの「Add」ボタンから書庫ファイルを作成。「Extract」ボタンで書庫ファイルを解凍できる

⑤ 圧縮設定も可能

書庫ファイル作成画面の「Options」タブで圧縮率や暗号化などの圧縮オプションを設定することができる

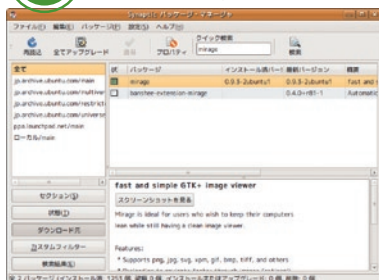
B●画像を素早く閲覧したい➡Mirageで表示

Mirage画像ビューワ

Mirageはpng、jpg、svg、xpm、gif、bmp、tiffなどの画像形式に対応した画像ビューワ。

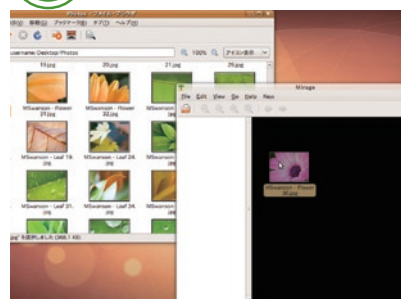
スライドショーとフルスクリーン表示に対応し画像の先読みによって高速な表示を実現している。また簡易的な編集も可能だ。

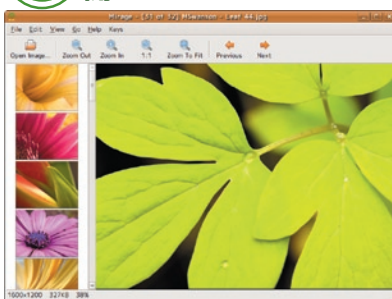
Mirage
作者名●Scott Horowitz
URL●http://mirageiv.berlios.de/

①Synapticからインストール

メインメニューの「システム」→「システム管理」→「Synapticパッケージマネージャ」から「mirage」パッケージをインストール

②グラフィックス →Mirageと選択

インストール後はメインメニューの「アプリケーション」→「グラフィックス」→「Mirage」から起動できる

③ファイルをドラッグ&ドロップ

起動したMirageのウインドウに画像ファイルをドラッグ&ドロップすれば画像を表示できる

④画像ファイルが開いた

フォルダ内の画像はサイドパネルにサムネイル表示される。ファンクションキーの「F11」でフルスクリーン表示、「F5」でスライドショー表示となる

編集も可能

メニューの「Edit」から画像の回転、反転、クロップ、リサイズなどの編集を行える

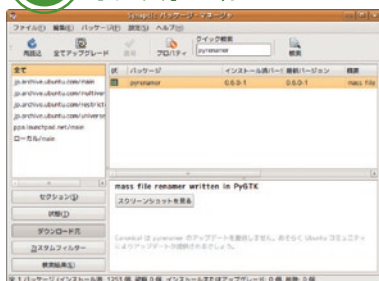
C●ファイル名を一括変更したい➡pyRenamerで変更

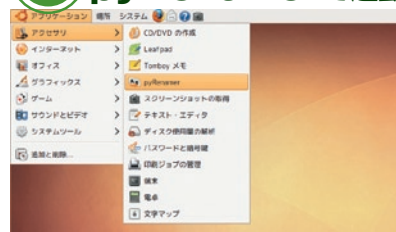
pyRenamerリネームツール

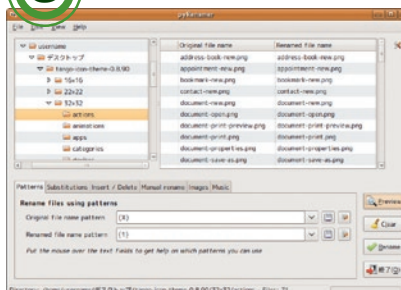
pyRenamerはファイルやフォルダのリネームを一括で行えるツールだ。

サブフォルダの再帰的なファイル名変更に対応しているほか、EXIF情報を使った画像ファイルのリネーム、タグを使った音楽ファイルのリネームができる。

pyRenamer
作者名●Adolfo González Blázquez
URL●http://www.infinicode.org/code/pyrenamer/

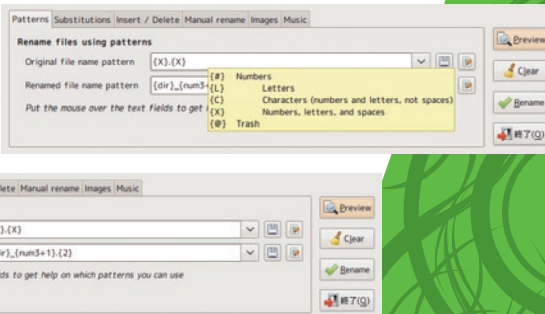
①Synapticからインストール

メインメニューの「システム」→「システム管理」→「Synapticパッケージマネージャ」から「pyrenamer」パッケージをインストール

②アクセサリ→pyRenamerで起動

インストール後はメインメニューの「アプリケーション」→「アクセサリ」→「pyRenamer」から起動可能

③フォルダを選択

フォルダツリーから変更したいファイルのあるフォルダを表示。変更後のファイル名をプレビューできる

④変更パターンを指定

ファイル名の変更パターンにはオリジナルと変更後のファイル名のパターンを指定する。単純にファイル名を連番化する場合はオリジナルのパターンに「{X}.{X}」を指定して変更後のパターンに「{num3+1}.{2}」を指定すると001.jpg、002.jpg...のようにフォルダ内のファイル名を連番化できる

ファイル名の変更パターンを指定。入力ボックスにマウスカーソルをのせるとヘルプが表示される

D●最新ブラウザを快適に使いたい➡Chromiumを試そう

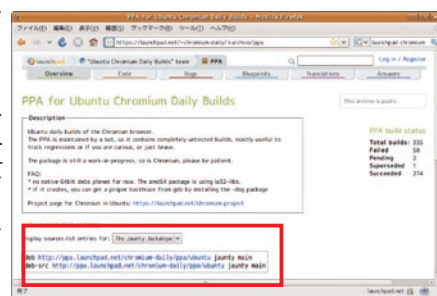
Chromiumウェブ・ブラウザ

ChromiumはGoogleChromeをサポートするオープンソースプロジェクトのWebブラウザ。

V8という高速なJavaScriptエンジンを搭載しておりAJAXを多用した現代のWebアプリケーションの利用に向いたWebブラウザだ。また、Webアプリケーションのオフラインサポート機能であるGoogleGearsが統合されている。

Chromium
作者名●Chromium team
URL●http://www.chromium.org/

① 開発バージョンの入手

Ubuntu向けの開発バージョンがLaunchpadでホスティングされている。https://edge.launchpad.net/~chromium-daily/+archive/ppaを参照してディストリビューション向けのリポジトリを追加するとパッケージをインストールできる

開発バージョンの注意

Chromiumの起動時には、このWebブラウザは開発中のアルファバージョンであり十分にテストされていない、という注意メッセージが表示される。Chromiumはまだ動作も不安定であり、メインのWebブラウザとして利用することは控えた方が良いだろう。

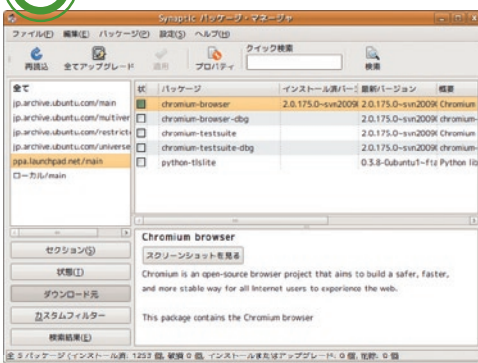
② リポジトリを追加

メインメニューの「システム」→「システム管理」→「ソフトウェア・ソース」の「サードパーティのソフトウェア」タブでリポジトリのAPTラインを追加

③ 公開鍵を追加

コマンドライン端末からリポジトリの公開鍵を追加

コマンド例：
sudo apt-key adv --recv-keys --keyserver keyserver.ubuntu.com 4E5E17B5

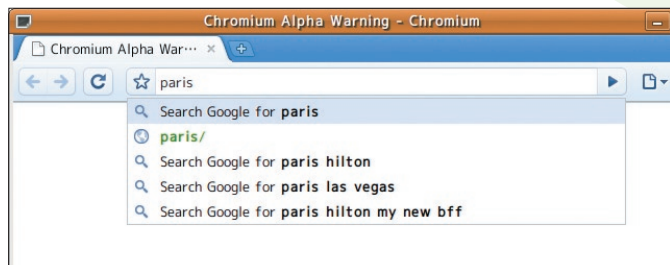
④ Synapticからインストール

メインメニューの「システム」→「システム管理」→「Synapticパッケージマネージャ」から「chromium-browser」をインストール

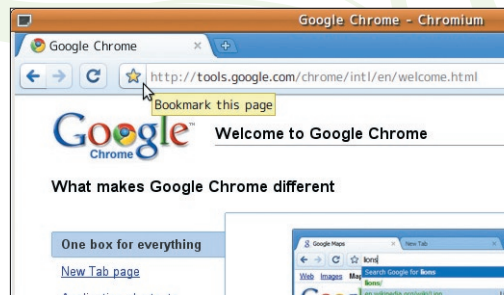
⑤ メニューから Chromiumを起動する

インストールするとメインメニューの「アプリケーション」→「インターネット」→「Chromium Web Browser」から起動できる

シンプルなインタフェース

Chromiumはブラウザのメニューバーやサイドバーを排したシンプルなインタフェースだ。ブックマークバーやブラウザの設定メニューはアドレスバー右側のボタンから表示できる

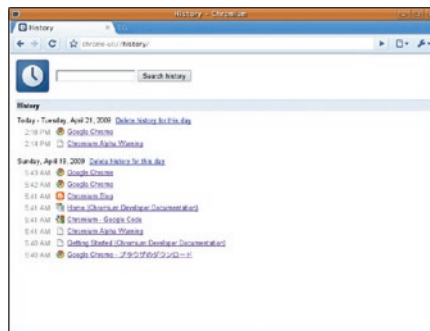
アドレスバーからウェブ検索

アドレスバーにキーワードを入力してWeb検索。標準の検索エンジンはGoogleだ

ワンクリックでブックマーク

アドレスバーのスターボタンをクリックしてページをブックマーク。ブックマークバーに登録される

新規タブ表示

タブ右側のボタンから新規タブ表示

新しいタブを開くと頻繁にアクセスするサイトやブックマーク及び履歴が表示される。頻繁にアクセスするサイトのスクリーンショットはChromiumによって自動的に取得される

履歴表示

Webページ風の履歴表示。履歴の検索が可能

E●ソフトウェアを簡単に追加したい➡Appnrで検索・追加

Appnrパッケージブラウザ

AppnrはUbuntuでソフトウェアのインストールを行えるWebベースのパッケージブラウザ。

アプリケーションの「追加と削除」のように検索、詳細表示、インストールといったことが利用頻度の高いWebブラウザで利用できる。

Appnr
作者名●Akira Ohgaki
URL●http://appnr.com/

Appnr.com

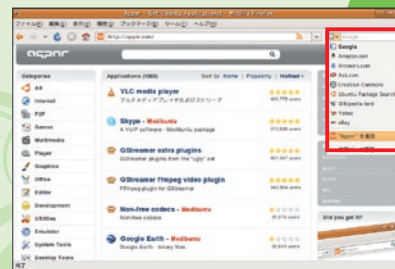
http://appnr.com/から利用可能。簡単なクリックだけでソフトウェアをシステムに追加できる

①一覧からソフトを選択

ソフトウェアのリストにマウスカーソルをのせると「Install」ボタンが表示され、クリックするとインストールがはじまる

②説明を確認してダウンロード

ソフトウェアの詳細ページでは関連するスクリーンショットや動画やWebページなどを確認することができる

Firefoxに検索の追加

Appnrのソフトウェア検索はFirefoxの検索エンジンに追加可能。別のページからでも直ぐに気になったソフトウェアを検索できる

Software 06

Enjoy all sort of media files

Ubuntuでメディアファイルを再生!

インストール直後のUbuntuは、完全オープンなメディアファイルにしか対応していない。再生ツールを導入して、色々なメディアファイルをUbuntuで楽しもう！

標準状態のUbuntuでは、WMVやMPEGのように完全なフリーではないコーデックはインストールされていない。これは開発元のポリシーによる物だ。だがポリシーはともかく、再生したいと思う動画ファイルはWMV形式やMPEG形式、AVI形式がほとんどなのも事実。幸い、Ubuntuにはメディアファイルの再生に必要なツールを導入するための仕組みがある。そのため、ツールを利用すれば必要なツールを簡単にインストールすることができるのだ。ただし再生したいファイルの種類によって、必要となるツールや導入方法が違うので注意して欲しい。色々インストールするのが面倒なら、「VLC」を使う方法もある。コーデック内蔵なので、面倒な手間無くメディアファイルを再生できるぞ。

A mp3ファイルを再生したい

mp3再生時に自動でコーデックのインストールが可能

B DVDを再生したい

DVDの読み込み設定をして、市販のDVDを再生可能にしよう

C 色々な形式の動画を見たい!

Ubuntu標準以外のコーデック追加でAVIやWMVを再生可能に

D コーデックインストールは面倒

コーデック内蔵のVLCを使えば手っ取り早く動画が再生できる

A●mp3ファイルを再生したい→自動インストール機能を使う!

コーデックの自動インストール

再生できて当たり前といっても過言ではないmp3ファイルだが、Ubuntuは標準では対応していない。ただし、自動インストール機能があるので初回再生時に画面の表示に従って操作すれば簡単にインストールができるぞ。

① 適当なmp3ファイルを開く

再生したいmp3ファイルをダブルクリックするか、右クリックして開きたいアプリを選択する

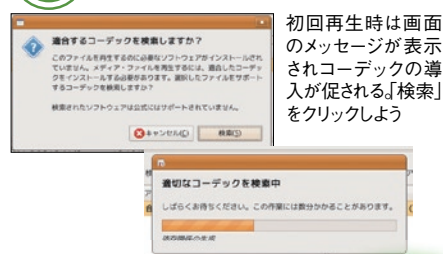
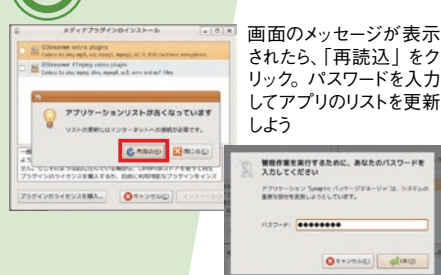
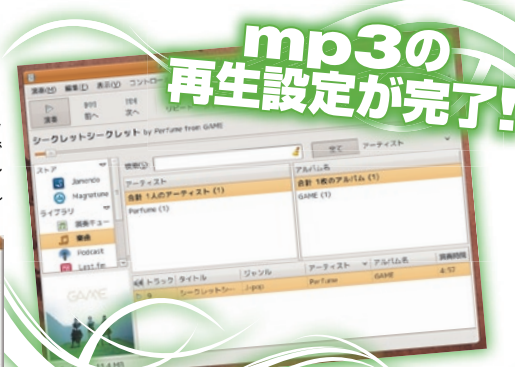
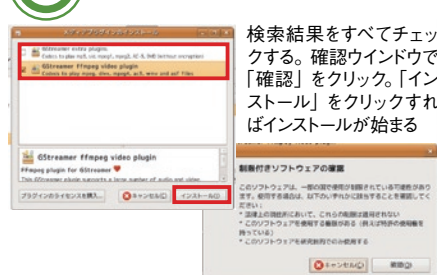
② 対応コーデックを検索

初回再生時は画面のメッセージが表示されコーデックの導入が促される。「検索」をクリックしよう

③ インストールを指定

画面のメッセージが表示されたら、「再読込」をクリック。パスワードを入力してアプリのリストを更新しよう

④ コーデックをインストール

検索結果をすべてチェックする。確認ウインドウで「確認」をクリック。「インストール」をクリックすればインストールが始まる

B●DVDを再生したい➡動画プレイヤーでOK!

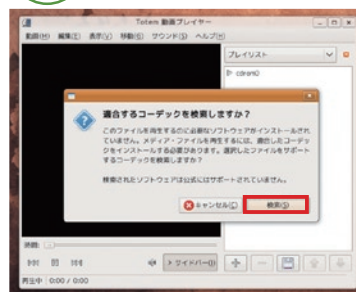
DVD再生用コーデックをインストールする

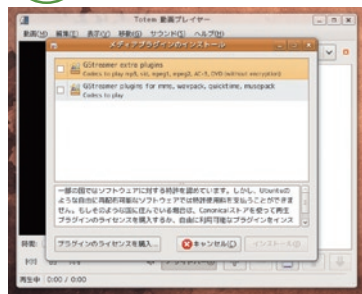
コーデックの自動インストール

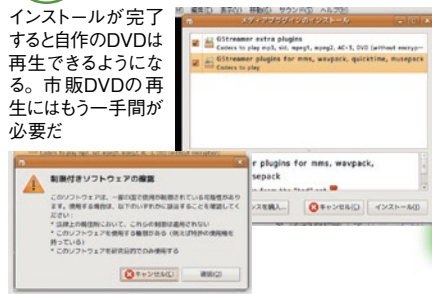
UbuntuではDVD再生ツールとして「動画プレイヤー」が用意されている。ただし、例によってコーデックは別途のインストールが必要だ。コーデックさえ入れれば自作のDVDは再生できる。ただし市販のDVDビデオを再生する場合は再生設定が必要なので注意しよう。

①DVDを自動再生

PCにDVDを入れると、画面のウインドウが表示され再生するかを確認される

②対応コーデックを検索

初回再生時にはコーデックのインストールを促すメッセージが出るので「検索」をクリック

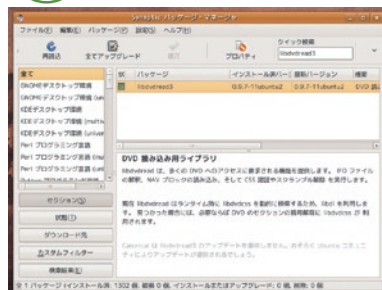
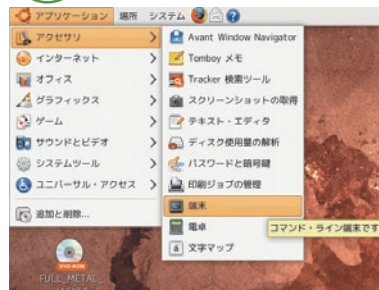
③インストールを指定

検索の結果、2項目が表示される。すべてインストールすればOKなのでチェックを入れよう

④コーデックのインストールを実行

インストールが完了すると自作のDVDは再生できるようになる。市販DVDの再生にはもう一手間が必要だ

市販DVDの再生設定を行う!

市販DVDの再生には設定が必要

市販のDVDを再生するためには、UbuntuのDVD読み込み機能を有効化する必要がある。操作はコマンド入力で行うが、入力するコマンド自体はひとつだけだ。入力ミスに気をつけて操作すれば難しいことは何もないので、慎重にコマンドを入力していってほしい。

①ツールが導入済みか確認

「Synaptic」で「libdvdread3」がインストール済みか確認しておこう

②端末を起動

「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」と進み、端末を起動する

③コマンドを入力

コマンドを入力してエンターキーを押す。パスワードを聞かれるので入力し、エンターキーだ

④設定が完了

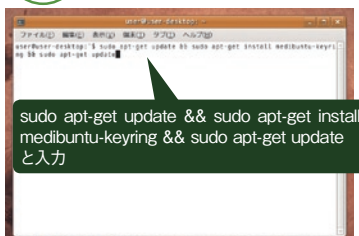
「libdvdcss2を展開しています」と表示されればOK。市販のDVDを再生してみよう

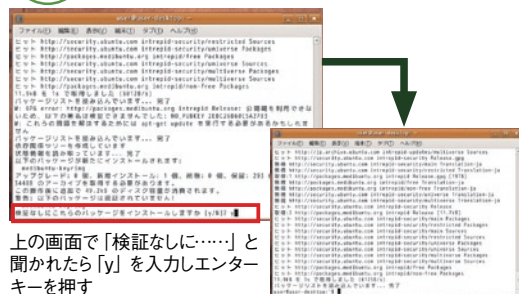
C●色々な形式の動画を見たい!➡medibuntuでコーデックを追加!

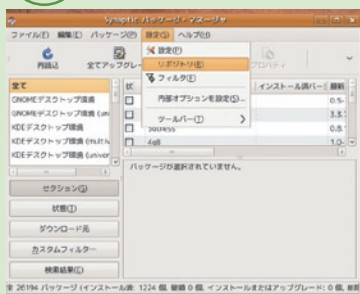
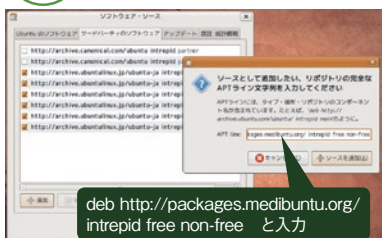
リポジトリを追加する

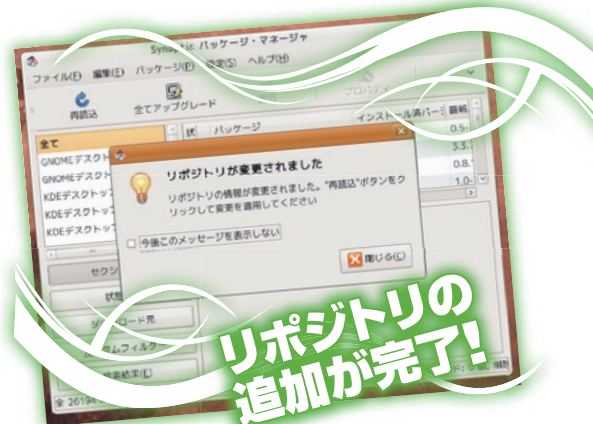
medibuntuの利用設定をする

Windowsでよく使われるAVI形式やWMV形式のファイルをUbuntuで再生したい場合、「medibuntu」というリポジトリを使う必要がある。リポジトリとはアプリを蓄えた倉庫のような場所で、「medibuntu」にはメディアファイル関連のアプリが色々蓄えられているのだ。

①コマンドを入力

まずはmedibuntuの利用に必要なファイルを導入する。コマンドを入力しパスワードを入れる

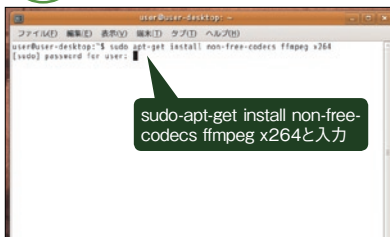
②鍵ファイルの導入が完了

上の画面で「検証なしに…」と聞かれたら「y」を入力しエンターキーを押す

③Synapticを起動

次にmedibuntuを読み込む設定をする。Synapticを開き「設定」→「リポジトリ」と進もう

④medibuntuを追加

画面上の「追加」でmedibuntuを追加しよう。完了したらメインウインドウで「再読込」をクリック

コーデックをインストールする

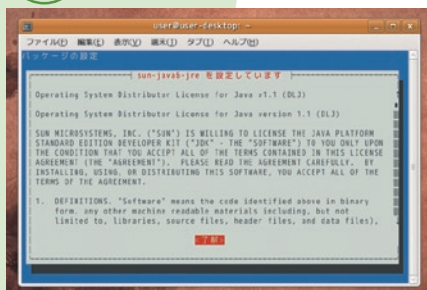
端末を使ってコーデックインストール

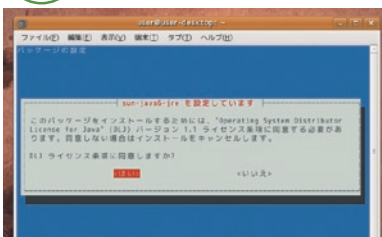
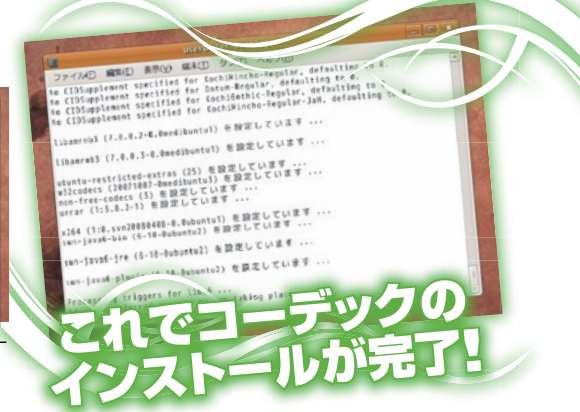
medibuntuを利用できるようになったら、いよいよコーデックのインストールを行おう。今回は複数のコーデックを同時にインストールしたいので、コマンドを利用する。入力するコマンドはひとつだけなので、苦手な人も入力ミスに気をつけながら作業を進めて欲しい。

①インストールするコーデックを指定

コマンドを入力すると、パスワードを聞かれる。ubuntuインストール時に設定したものを入力

②インストールを実行

「続行しますか？」とメッセージが出たら「y」と入力

③確認ウインドウが表示

画面のウインドウが表示されるので、エンターキーを押して次に進む

④インストールが完了

「Tab」キーで「はい」にカーソルを移動し、エンターキーを押そう

SMPlayerをインストールする

多機能動画再生プレイヤーを導入しよう

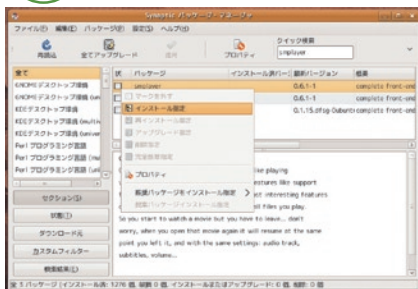
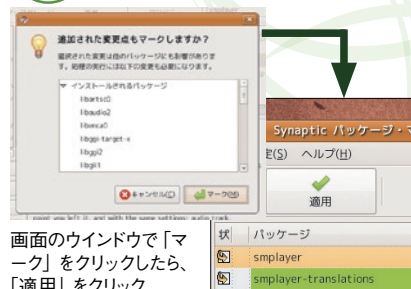
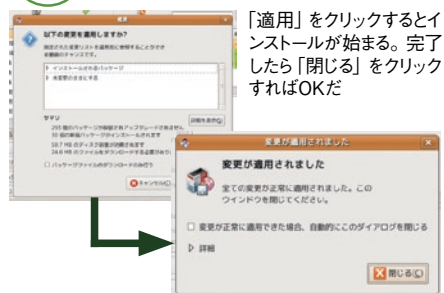
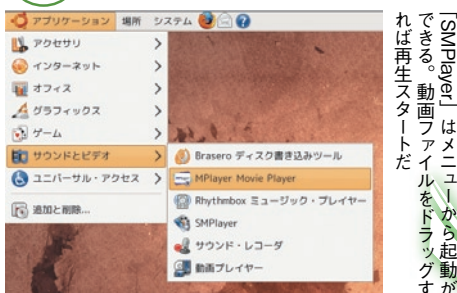
コーデックのインストールが完了したら、次はプレイヤーのインストールだ。今回は標準の「動画プレイヤー」ではなく、より高機能な「SMPlayer」を利用する。先ほど導入したコーデックを利用して、様々なメディアファイルを再生することができるぞ。

SMPlayer
作者名●RVM
URL●http://smplayer.sourceforge.net/

Synapticで「smplayer」をインストール指定しよう

画面のウインドウで「マーク」をクリックしたら、「適用」をクリック

「適用」をクリックするとインストールが始まる。完了したら「閉じる」をクリックすればOKだ

「SMPlayer」はメニューから起動ができる。動画ファイルをドラッグすれば再生スタートだ

D●コーデックインストールは面倒!➡VLCをインストール!

VLC media playerのインストール方法

VLCならコーデックは不要

コーデックのインストールが面倒なら「VLC media player」を使ってみるという手もある。VLCはコーデックを内蔵しているので、別途インストールする必要無く色々なメディアファイルを再生することができるのが特徴だ。導入も簡単なので一度試してみるとよいだろう。

VLC media player
作者名●the VideoLAN team
URL●http://www.videolan.org/vlc/

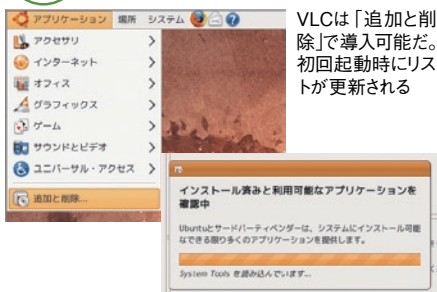
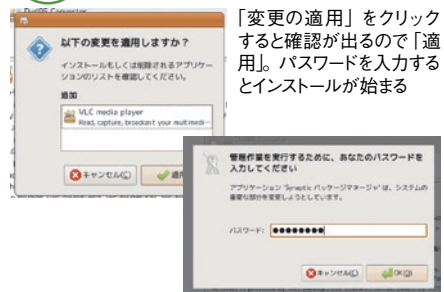
VLCは「追加と削除」で導入可能だ。初回起動時にリストが更新される

「VLC media player」にチェックを入れ、表示されるウインドウで「有効」をクリック

「変更の適用」をクリックすると確認が出るので「適用」。パスワードを入力するとインストールが始まる

VLCはメニューから起動できる。初回起動時は英語のウインドウが出るので「OK」をクリック

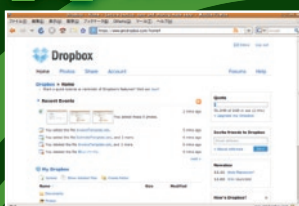
Software 07

Easy File sharing

簡単・便利にファイル共有!

すぐに利用できるオンラインサービスやツールを利用して他のユーザーや別のPCとファイルを共有すれば、日常のみならず作業の効率なども大幅に向上できるぞ!!

社内でも家庭内でも友人・知人でも、場所や相手が何であれ、リムーバブルストレージでファイルを受け渡す習慣は薄れ、ネットワークやインターネットを通じてファイルを共有する方法が現代の習慣になりつつある感がある。

しかしネットワークやインターネットで共有するための取り掛かりを面倒に感じていたり、まだ不便な方法で行っていたりするかもしれない。

そこでここでは複数のPC間や複数のユーザー間など、状況に応じて簡単にファイルを共有するための方法を紹介していくぞ。

A●オンラインでファイル共有したい➡Dropboxを使おう

まずはソフトのダウンロードと登録を済ませよう

Dropboxは専用ツールを利用したオンラインストレージサービスで無料のBasicアカウントでは2GBが提供されている。専用ツールのインストール後は普通に利用でき、Dropboxを利用しているPCのデータは自動的にDropboxサーバーと同期され、どこでも使えるぞ。

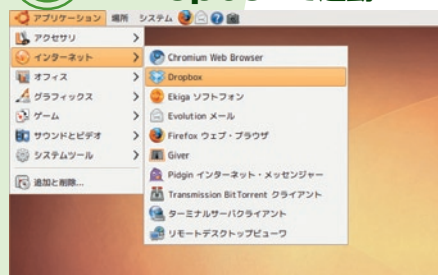
Dropbox
作者名●Dropbox
URL●http://www.getdropbox.com/

① サイトからダウンロード

http://www.getdropbox.com/からディストリビューションのパッケージをダウンロード

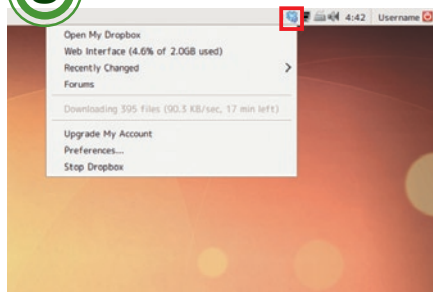
② パッケージをインストール

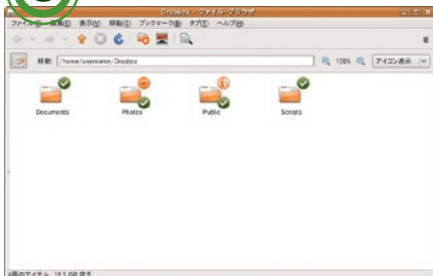
ダウンロードしたパッケージをダブルクリックして起動したパッケージインストーラからインストール

③ メニューのインターネット→Dropboxで起動

インストールするとメインメニューの「アプリケーション」→「インターネット」→「Dropbox」から起動できる

④ アカウント作成・ログイン

初回起動時にはアカウントのセットアップがはじまる。セットアッププログラムからアカウントの作成が可能だ

⑤ Dropbox通知アイコン

セットアップが完了すると通知スペースにDropboxのアイコンが現れて同期状態の通知が行われる

⑥ パソコンでの管理画面

Dropboxで同期を行っているフォルダにファイルを追加したり編集を行うと自動的にDropboxサーバーと同期が行われ、Dropboxを利用している他のPCにも変更が反映される

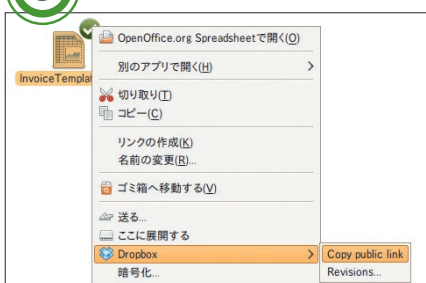
⑦ アイコンで状況確認

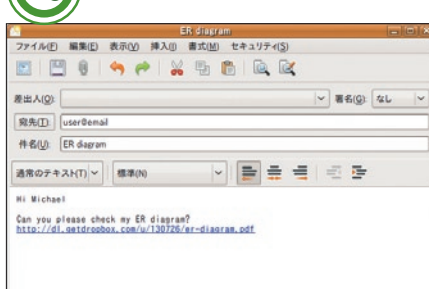
Dropboxで同期を行っているフォルダ内のファイルやフォルダには同期状態のエンブレムが付く。エンブレムがチェックマークに変われば同期は完了だ

ファイル数が1000を越えるフォルダを追加したり、ログのようにリアルタイムに内容が変化するようなファイルをDropboxで同期する場合、まれに同期が失敗することがある。その場合は再度Dropboxフォルダに追加し直してみると良い。ただしDropboxフォルダ内で書き換え頻度の高いログは同期しないほうが良いだろう

⑧ ファイルの共有が完了

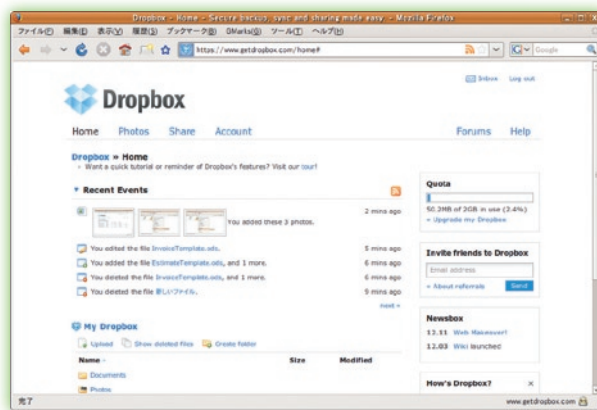
同様にほかのパソコンにもDropboxをインストールしよう。WindowsやMacとももちろん共有可能だ

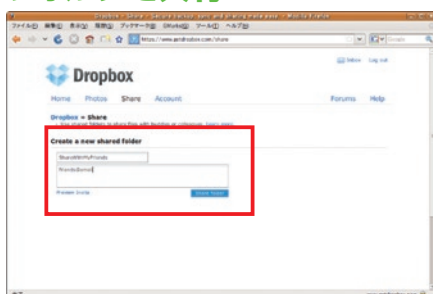
⑨ 公開リンクを取得

Publicフォルダのファイルを右クリックして「Dropbox」→「Copy public link」から公開用のURLを取得できる。取得したURLはクリップボードに保存される

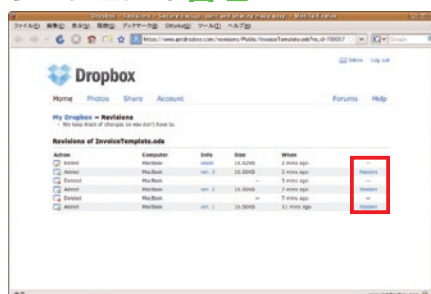
⑩ 公開リンクを通知

クリップボードに保存されたURLをEメールなどに貼り付けて教えればDropboxサーバーからファイルをダウンロードしてもらうことができる

Web上の専用スペースでもっと便利に!!

オンラインストレージならWin/Macとも共有可

DropboxはWebベースのツールのため、アカウントを取得するとWeb上に専用のスペースが作成される。Webブラウザで http://www.getdropbox.com/に アクセスして作成したアカウントでログインするとファイルの公開や共有などの各種設定を行うことができる。またフォルダをZIP形式でダウンロードすることもできる。

Firefoxなどのwebブラウザでアクセスした際の管理画面「空き容量」や「最近の変更」などが一覧表示されている

フォルダを共有

フォルダの共有設定で他のユーザーを招待して特定のフォルダを共有できる。相手のEメールアドレスを指定すると相手に招待の通知が行われ、招待を受けたユーザーはフォルダの同期が可能になる

リビジョンの管理

Dropboxサーバーではファイルの変更状態が保存されており、ファイルを変更前の状態に戻すことが可能だ。また誤って削除したファイルを復活させることもできる

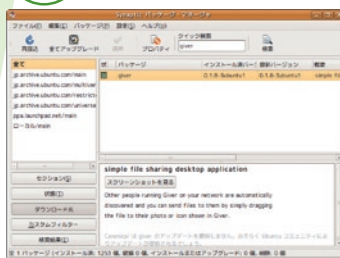
B●LAN内でファイルを交換したい➡Giverにドラッグ&ドロップ

Giverファイル共有ツール

Giverはネットワーク内のユーザーにファイルを転送するためのファイル共有ツール。

煩わしい設定を行うことなくドラッグアンドドロップだけで簡単にファイルを送ることができる。社内ネットワークなどで大変役立つツールだ。

Giver
作者名●Novell, Inc
URL●http://code.google.com/p/giver/

① Synapticからインストール

メインメニューの「システム」→「システム管理」→「Synapticパッケージマネージャ」から「giver」パッケージをインストール

② インターネット→Giverを選択で起動

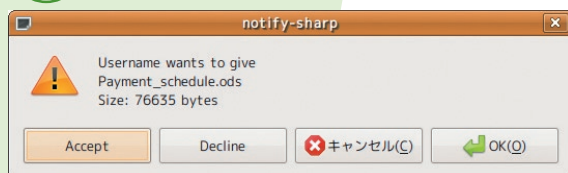
インストールするとメインメニューの「アプリケーション」→「インターネット」→「Giver」から起動できる

③ Giverユーザーを自動検知

Giverを起動すると自動的にネットワーク内の他のGiverユーザーが検知されてウインドウに表示される

④ ファイルを送信

ファイルを送りたいユーザーにファイルをドラッグアンドドロップするとファイルを送信できる。リストをクリックして送信するファイルを選ぶこともでき、一度に複数ファイルを送ることもできる

⑤ 送られてきたファイルを受信

ファイルを受け取るユーザー側では通知ダイアログが表示され、ファイルを受けとるかどうか確認が促される。ファイルを受け取る場合は「Accept」をクリック

⑥ 受信完了

ファイルの受信が完了するとデスクトップにファイルが保存される

Giver通知アイコン

Giverは通知スペースに常駐しファイルの送受信を通知する

名前と保存場所を設定

Giverの設定画面でネットワークでの表示名とアイコンとファイルの保存場所を設定できる。アイコン表示にはPC内の画像のほかWeb上の画像やアバターサービスのGravatarを利用することができる

C●OSの標準機能でオンライン共有したい➡Box.netを使おう

Box.netオンラインストレージ

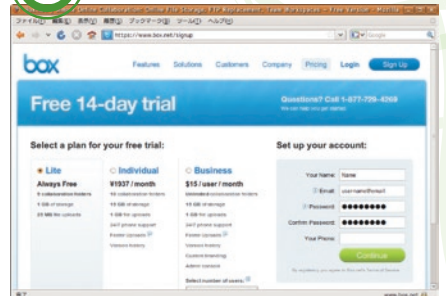
Box.netはWebDAVアクセスをサポートしたオンラインストレージサービス。無料のLiteアカウントでは1GBが提供されている。

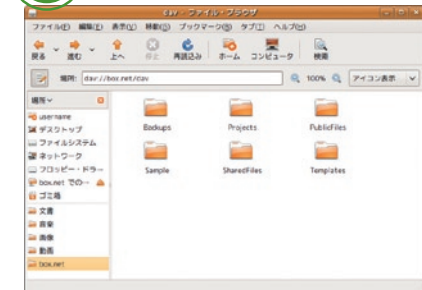
専用のクライアントツールを必要とせずNautilusファイルマネージャから利用できる。Box.netに保存したファイルはZohoやpicnikなど他のWebサービスで開いてブラウザだけで編集も可能。

Box.net
作者名●Box.net
URL●http://www.box.net/

① Box.netへアクセス

Webブラウザでhttp://www.box.net/へアクセスしてアカウントを作成する必要がある

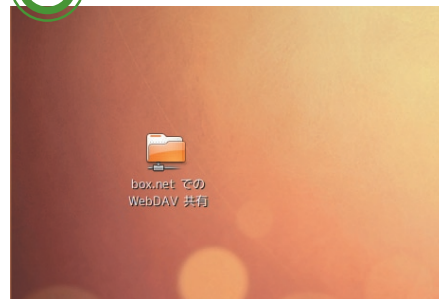
② アカウントを作成

無料で利用できるLiteアカウントの他にビジネスやコラボレーション向けの有料アカウントが用意されている

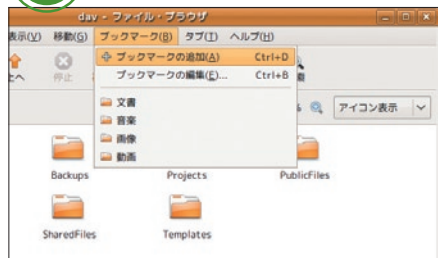
③ Nautilusで WebDAV接続

Nautilusファイルマネージャのアドレスバーに「dav://box.net/dav」を入力してBox.netサーバーにWebDAV接続

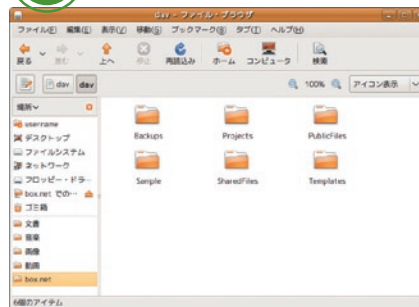
④ サーバー接続の認証

box.net/dav のパスワードを入力して下さい
ユーザ名(U): username
パスワード(P): ●●●●●●●●
今すぐパスワードを破棄する(I)
ログアウトするまでパスワードを記憶する(L)
期限なしで記憶する(F)
キャンセル(C)　接続する(N)

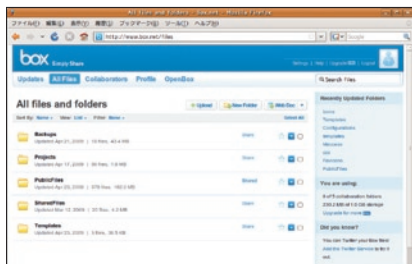
サーバー接続の認証ダイアログボックスが表示されたらBox.netのユーザー名とパスワードを入力

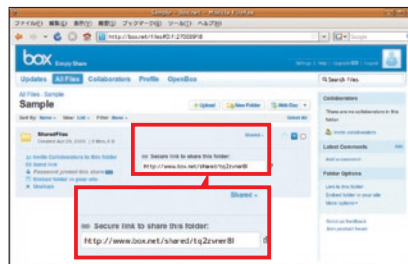
⑤ 接続完了

接続・認証が完了するとデスクトップにBox.netへのWebDAV接続アイコンが現れる

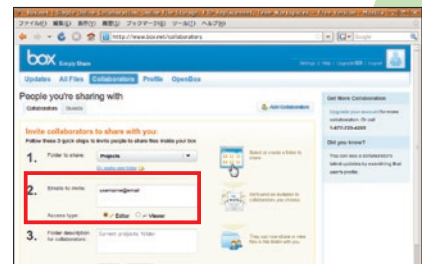
⑥ Nautilusに ブックマーク

Box.netへWebDAV接続した状態でNautilusにブックマークしておけば次回から素早く接続できる

⑦ ファイルの保存

ドラッグアンドドロップしてファイルをアップロード/ダウンロードできる。無料のLiteアカウントでは1ファイル25MBまでアップロード可能だ

GNOME標準のテキストエディタやGIMPなどWebDAVサーバー上のファイルを透過的に扱えるアプリケーションであればサーバー上のファイルを直接開くことも可能

Webブラウザから管理

Webブラウザでhttp://www.box.net/にログインすればファイルを管理したり他のWebサービスで開くこともできる

フォルダを公開

フォルダの「Share」リンクをクリックするとそのフォルダを公開用に設定することができ公開用のURLを取得できる

フォルダを共有

フォルダの共有設定で他のユーザーを招待して特定のフォルダを共有できる。表示のみ/編集可の指定が可能

Using Windows Stuff

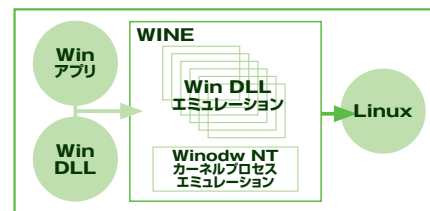
Windows アプリを動かそう

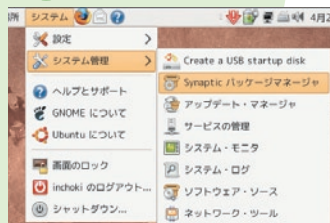
WindowsアプリケーションもNetアプリケーションも、SilverlightだってLinuxがあればOKだ

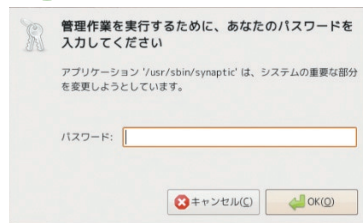
Ubuntuは優れたディストリビューションだが、世間一般にはWindows専用のアプリやサイトなどが多いのも事実。そこでここではWindowsアプリケーションや、Windows専用と思われがちな.Netアプリケーション、WEBリッチクライアントのSilverlightは、実はLinuxでも利用可能にするための、その基本となるツール「WINE」、「moonlight」、「mono」を紹介する。

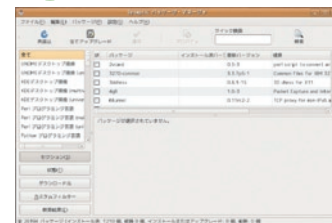
A●Windowsアプリも使いたい➡WINEを入れてみよう

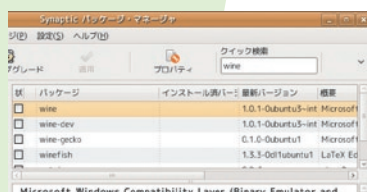
Windows基盤wine

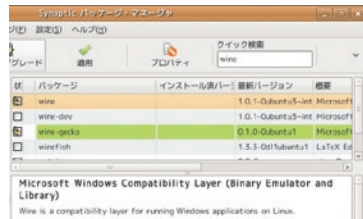
Linux上でWindowアプリケーションを動作させるためのツールとしては「WINE」が有名だ。右にWINEの概要図を示したが、要はWindowsアプリケーションの挙動をLinuxに伝える仲介役を果たすエミュレータのようなソフトウェアなのだ。今回はWINEの導入からWindowsアプリケーションのインストールまでを実際に解説していくぞ。

WINEをインストールしよう

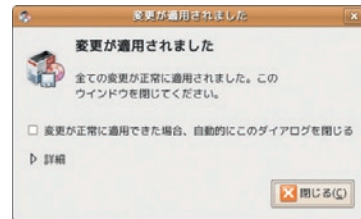
①Synapticを起動しよう

先ずはメニューからSynapticパッケージマネージャを起動する

②パスワードを入力する

パッケージの操作はシステム管理にあたり、パスワードを求められる

③wineパッケージを探そう

起動したら、クイック検索に「wine」と入力し検索しよう

④wineと依存パッケージを選択だ

検索結果の「wine」をダブルクリックすると依存情報も表示される

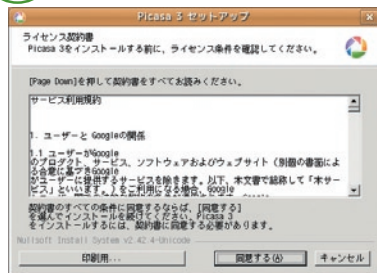
⑤いよいよインストール

「wine」と依存パッケージに色がつく。適用をクリックしよう

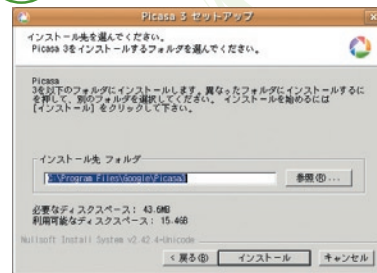
⑥インストール完了だ

パッケージの導入が始まり完了すると左のダイアログが表示される

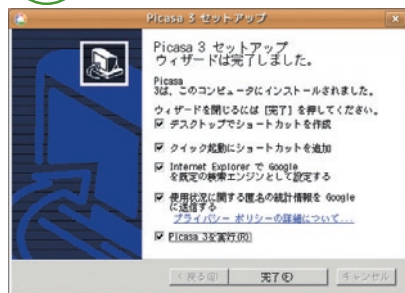
Windows版Google Picasaをインストール

① Windowsアプリのインストーラをgetだ

早速アプリケーションを導入だ。今回はGoogleの画像管理ツール「Picasa」を入れてみる

② ライセンス条項を確認しよう

インストーラをダブルクリックしてインストールを開始する。先ずはライセンスの確認だ

③ インストール先を確認しよう

次にインストール先の決定。Windowsにアプリケーションをインストールするのと同じ流れだ

④ インストール完了だ

インストール完了だ。ちなみに今回利用したPicasaはhttp://picasa.google.co.jp/からダウンロードできる

Windowsアプリが起動！

winetricksをインストールしよう

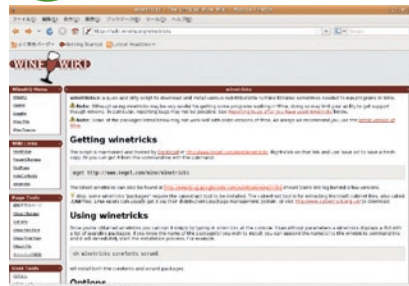
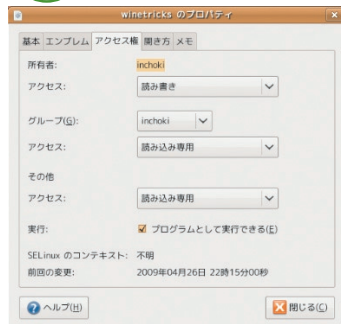
Winアプリ導入支援スクリプトwinetricksを使おう

WINE向けにアプリケーション導入を支援するツールとして、今回は「winetricks」を紹介しよう。右のリストはwinetricksがサポートしているものの一部だ。Microsoft製のアプリケーションやユーティリティの多くがサポートされている。

winetricks
作者名●WINEチーム
URL●http://wiki.wwinehq.org/winetricks

art2kmin	MS Access 2000 runtime. Requires Access 2000 Dev license!
colorprofile	Standard RGB color profile
comctl32	MS common controls 5.80
comctl32.ocx	MS comctl32.ocx and mscomctl.ocx, comctl32 wrappers for VB6
controlpad	MS ActiveX Control Pad
corefonts	MS Arial, Courier, Times fonts
d3dx9	MS d3dx9_??.dll (from DirectX 9 user redistributable)
dcom98	MS DCOM (ole32, oleaut32); requires Win98 license!
dirac0.8	the obsolete Dirac 0.8 directshow filter
directx9	MS DirectX 9 user redistributable (not recommended! use d3dx9 instead)
divx	divx video codec
dotnet11	MS .NET 1.1 (requires Windows license)
dotnet20	MS .NET 2.0 (requires Windows license)
ffdshow	ffdshow video codecs
flash	Adobe Flash Player ActiveX and firefox plugins
fm20	MS Forms 2.0 Object Library

① winetricksをダウンロードしよう

http://wiki.winehq.org/winetricksから入手できる

② 実行できるように変更しよう

ダウンロードファイルを右クリックしてプロパティを表示し、プログラムとして実行できるにチェックを付ける

③ winetricksを起動しよう

ファイルをダブルクリックして端末内で実行を選ぶと起動する

アプリダウンロードもしてくれるぞ！

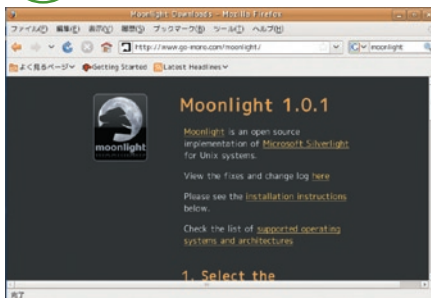
B●Silverlightも表示したい➡MoonLightでOK

Moonlightをダウンロードしよう!

Linux版Silverlight→Moonlight

Microsoftが推進するWEBリッチクライアント「Silverlight」。日本国内でも様々なサイトなどで使用され始めている。そんなSilverlightのコンテンツをLinuxでも楽しめるようにするのが、「Moonlight」だ。Moonlightは「.Net Framework」をLinuxでも扱えるようにすることを目的とする、monoプロジェクトからFirefoxのアドオンとしてダウンロードすることができる。

Moonlight
作者名●mono project
URL●http://www.go-mono.com/moonlight/

①公式サイトにアクセスする

まずmonoの公式サイトhttp://www.go-mono.com/moonlight/にアクセス。リンクは画面の下の方にあるので、スクロールすること

②Moonlightをダウンロードする

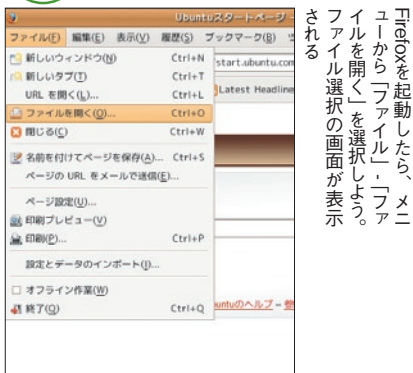
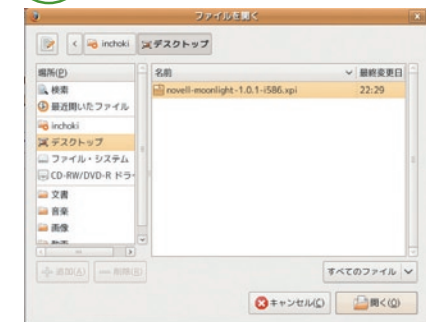
ページ中程にある「Download the plugin」という部分がダウンロードリンクになっている。単にマウスでクリックすれば、ダウンロードが開始されるぞ

MoonlightをFirefoxに組み込もう!

①ダウンロードファイルを確認する

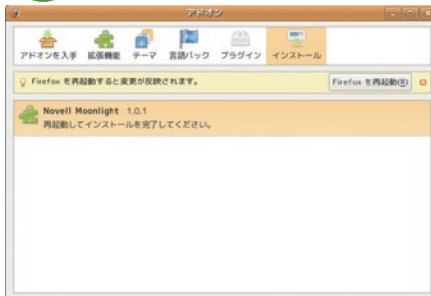
MoonlightはFirefoxのアドオンなので、Windows版のFirefoxと同じ方法でインストールすることができる

②Firefoxを起動する

Firefoxを起動したら、メニューから「ファイル」・「ファイルを開く」を選択しよう。ファイル選択の画面が表示される

③Firefoxからファイルを開く

ダウンロードしてきたMoonlightアドオンのファイルを選択し「開く」をクリックしよう

④セキュリティ情報を確認する

セキュリティに関する警告画面が表示される。確認後に「今すぐインストール」ボタンをクリックするとインストールが開始される

⑤インストール開始

インストールが完了すると、アドオンを有効にするためにFirefoxを再起動するように表示されるので再起動しよう

⑥Firefoxを再起動して完了だ

再起動すると、アドオン管理の画面が表示される。一覧にMoonlightが追加されていることを確認できるぞ。これでインストール完了だ

Silverlightのページを表示してみよう!

実際にサイトを閲覧する

Moonlightのインストールが無事に終了したら、今度はMicrosoftのSilverlight公式サイトを見てみよう。サイトにはSilverlightショーケース(http://silverlight.net/showcase/)というSilverlightのページを集めたページがある。ここからSilverlightを利用しているサイトを検索することができるぞ。また、公式サイト自体もSilverlightを使用しているため、ここが無事動作すればインストールは成功している。

① 公式サイトにアクセスする

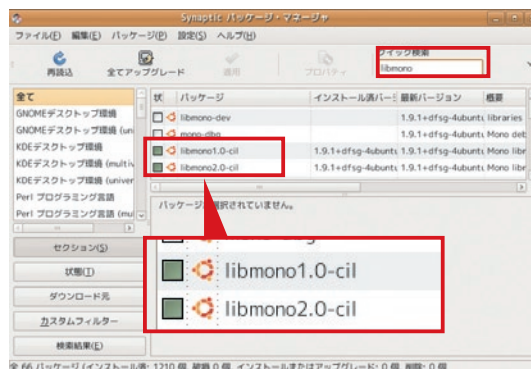
Microsoftの公式サイト自体もSilverlightを利用して作られている。表示が成功すると上のような画面に

最新Webコンテンツも表示OK!

C●.Netアプリも動かしたい➡Monoを利用すればOK

Linux版.Net→Monoがインストールされているか確認しよう

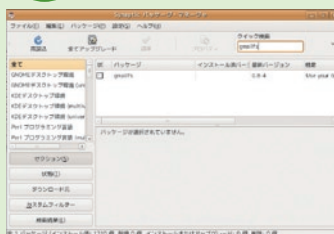
Linux上で「.Net Framework」を扱うためのプラットフォームが「Mono」だ。主にCLI仮想マシンと開発ツールで構成されているが、最新のUbuntuでは、「.Net Framework」を使用したアプリケーションを動かすのに必要なCLI仮想マシンが標準でインストールされている。確認はSynapticから検索することで可能だ。右を参考に実際に確認してみよう。

Mono
作者名●mono project
URL●http://www.mono-project.com/Main_Page

Synapticで「libmono」と検索し、「libmono1.0-cli」、「libmono2.0-cli」が緑色なら導入済みだ

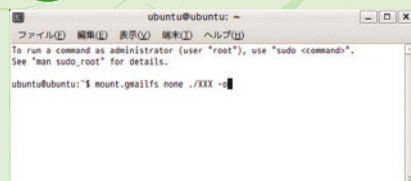
Windows→Linuxでファイルをやりとり

Webアプリを使えば簡単に移動可能

LinuxとWindowsの間で手軽にファイルを共有する方法として、GoogleのGmailを利用した「Gmail FS」というツールがある。GmailのメールボックスをPCからフォルダのように利用するユーティリティだ。Gmailの数GBにもなるメールボックスをオンラインストレージとして利用することができる。Windows版は「Gmail Drive」という名前で配布されている。ツールがインストールされていないPCからも、ブラウザでGmailにアクセスすれば、ファイルをダウンロードできる。ただし、Gmailの添付ファイルとして扱うので、サイズ制限により10MBまでのファイルしか扱えない。

① Synapticで検索

Synapticパッケージマネージャで「gmailfs」と検索しインストールしよう

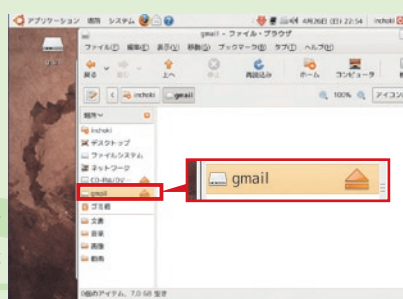
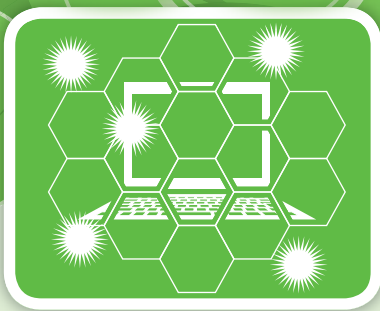
② コマンドを実行

```
ubuntu@ubuntu:~$ mount.gmailfs none ./XXX -o
```

Gmail FSに利用するフォルダを作成し、端末から上のコマンドを実行。「XXX」はフォルダ名にすること

③ ディスクが表示される

ファイルブラウザで見ると、gmailという名前のディスクが表示されるぞ。あとはマシン上のフォルダと同様に扱うことができる

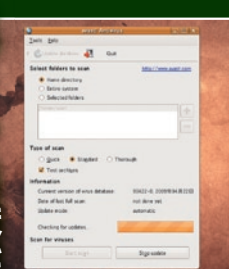
Software 09

Protect your PC

ツール導入でセキュリティを確保

Windowsと比べてセキュリティ面での心配が少ないといわれるLinuxだが、デフォルト状態では不十分。ツールを導入して完璧にセキュリティを固めよう！

実際のところ、Linuxを使う場合はWindowsのようにセキュリティ対策に神経質になる必要はない。というのは、標準状態で安全な設定になっていることとウイルスの絶対数が少ないことに助けられているからだ。とはいえ今後、Linuxをターゲットにしたアタックや悪質なウイルスが出現しないという保証はどこにもない。場合によっては、大事な個人情報が流出してしまう恐れもある。被害を受けてしまってからでは、はっきりいって遅い。取り返しのつかないダメージを受ける前に強固なセキュリティ環境を整えておこう。

A セキュリティを強化したい

ネットからのアタックを防ぐにはファイアウォールが有効だ。「FireStarter」で簡単に設定できるぞ

B ウイルス対策をしたい

Windows用の無料アンチウイルスで有名な「avast!」のLinux版なら、様々なウイルスを検出して、駆除することができる。もちろんフリーで利用可能

C 面倒な登録なしにウイルス対策したい

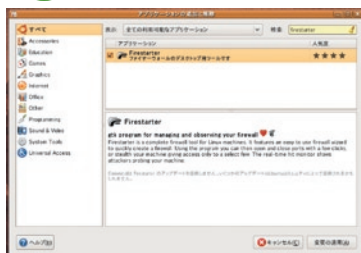
ウイルス対策なら「clamAV」もメジャーだ。フリーのうえユーザ登録なしで使える

A●セキュリティを強化したい➡FireStarterでファイアウォール構築！

FireStarterをインストールをする

「追加と削除」を使ってインストール

「FireStarter」を使うとマウス操作でUbuntu標準のファイアウォールを設定することができる。サーバを公開している場合や、P2Pを利用している場合は是非とも設定を行いセキュリティを確保しよう。

FireStarter
作者名●Tomas Junnonen
URL●http://www.fs-security.com/

① FireStarterを選択

「FireStarter」は「アプリケーションの追加と削除」でインストールできる

② 初回起動時の設定を開始

メニューの「システム」→「システム管理」と進んでFireStarterを起動しよう

③ ネットワークデバイスを選択

初回起動時は初期設定が必要だ。「検出したデバイス」は環境に合わせて選択しよう

④ 設定ウィザードで初回設定を実行

「インターネット接続共有の設定」は特に変更しなくてよい。「進む」をクリック

FireStarterの導入が完了！

FireStarterの起動設定をする

起動エラー発生時は設定を変更

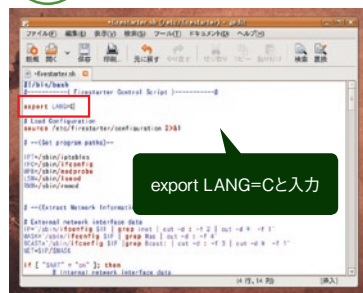
FireStarterは日本語化済みなので、一旦起動すれば簡単に利用できる。だが、残念なことに日本語環境では設定ファイルを編集しなければエラーが発生してしまうことがある。さしあたっては設定ファイルに一行書き足すだけで利用できる。今後のバージョンアップでの改善に期待したいところだ。

① 起動時にエラー発生!

FireStarter起動時に画面のエラーが表示されたら、設定ファイルの編集が必要だ

② 設定ファイルを開く

「端末」を開きコマンドを入力しよう。パスワードを聞かれるので、入力してエンターキーを押す

③ 設定項目を記述して保存

設定ファイルが開いたら、設定を書き足す。場所は先頭から3行目にしておこう

④ FireStarterを再度起動

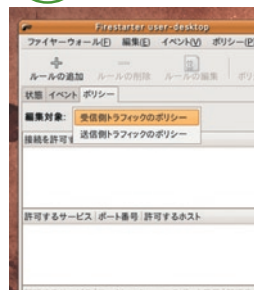
設定ファイルを保存したら、もう一度FireStarterを起動してみよう。うまくいっていれば、正常に起動する

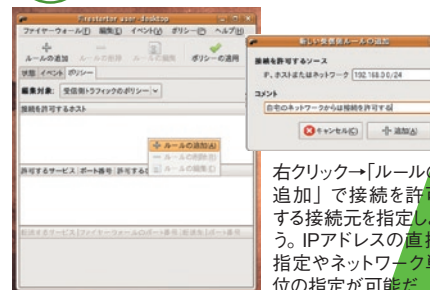
FireStarterの起動が完了!

ファイアウォールの設定をする

FireStarterでセキュリティを強化

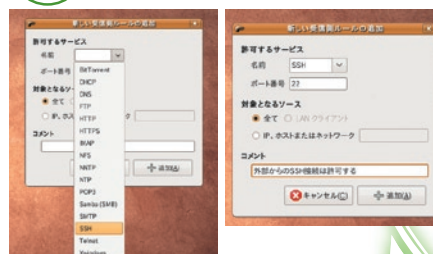
FireStarterが起動したら、いよいよファイアウォールの設定だ。Linuxだからといって特別なことはなく、受信と送信のそれぞれについて通信を受け入れるか拒否するかを定義していけばよい。設定ミスをするとネットにつながらなくなる場合もあるので慎重に作業しよう。

① 受信・送信の種別を選択

「ポリシー」タブ→「編集対象」で受信と送信のどちらを設定するか選択できる。今回は受信側の設定をサンプルとして紹介する

② ホスト単位での受信を許可

右クリック→「ルールの追加」で接続を許可する接続元を指定しよう。IPアドレスの直接指定やネットワーク単位の指定が可能だ

③ ポート単位の受信許可を設定

特定のポートへの接続を許可したい場合は、「許可するサービス」部分を右クリックして「ルールの追加」を選択して設定を行おう

④ サービスやポート番号を指定する

「名前」から許可するサービスを選択するか「ポート番号」を直接入力。同時に許可する接続元の指定もできるので必要に応じて設定をしておこう

ファイアウォールの設定が完了!

B•ウイルス対策をしたい➡avast!を利用する!

ユーザ登録をする

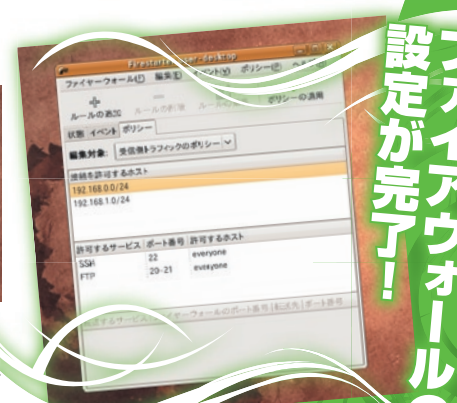
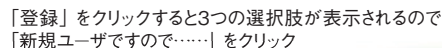
avast!のシリアルコードを入手する

Windows版の「avast!」は無料アンチウイルスソフトとして有名だ。かなりの数のユーザがいるはずだが、実は「avast!」にはLinux版もあることはあまり知られていない。Linux版もWindows版と同様に家庭での使用ならユーザ登録をするだけで無料で利用できるぞ。

① 公式サイトにアクセス

まずはWeb上からavast!のユーザ登録を行う。URLを直接入力してもOKだが、検索をかけた方が楽だ

② 新規ユーザ登録を行う

「登録」をクリックすると3つの選択肢が表示されるので「新規ユーザですので……」をクリック

③ 必要事項を入力

必要項目を入力して「登録」をクリックする。メールアドレスの入力ミスに注意

④ ユーザ登録が完了

完了すると登録完了画面が表示される。メールでシリアルコードが届くので、新着メールを確認しよう

avast!をインストールする

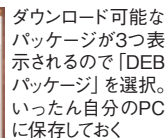
avast!のインストール

シリアルコードをゲットしたら、次は「avast!」をインストールしよう。インストールは「.deb」形式のパッケージを使えば簡単だ。公式サイトで配布しているパッケージをダウンロードして、インストールツールを起動すれば全自動でインストールが完了するぞ。

① 公式サイトにアクセス

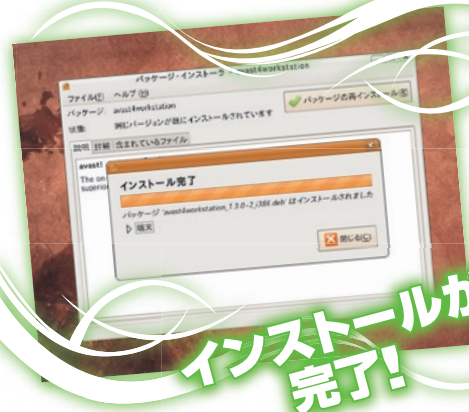
まずはパッケージをゲットしよう。ユーザ登録時にアクセスした公式サイトをもう一度表示して、「ダウンロードする」をクリック

② パッケージのダウンロード

ダウンロード可能なパッケージが3つ表示されるので「DEBパッケージ」を選択。いったん自分のPCに保存しておく

③ インストーラを起動

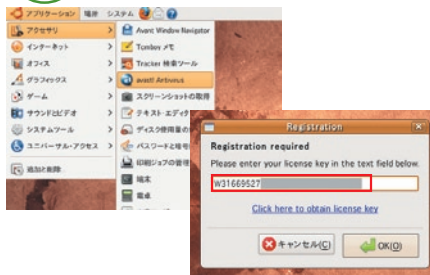
ダウンロードしたファイルを右クリック→「GDebi Package インストーラで開く」を選択

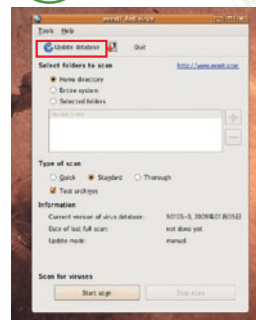
④ 自動インストールがスタート

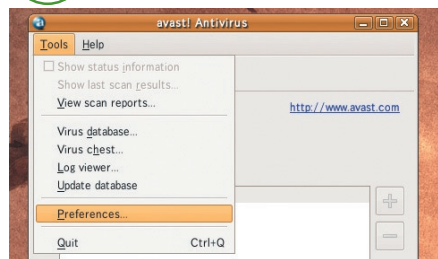
「パッケージのインストール」をクリックすれば作業は完了だ

自動アップデートを設定する

定義ファイルを自動で更新する

ウイルス対策ソフトといえば、忘れてはいけないのは定義ファイルの定期的な更新だ。「avast!」には自動で定義ファイルをアップデートする機能が搭載されている。そのため、更新を忘れてしまう危険性はまず無いといえる。インストールが完了したら自動アップデートが有効になっているか確認しておこう。

① シリアルコードを入力

「avast!」の初回起動時には、シリアルコードを入力する必要がある。メールで受け取ったものを入力

② 手動で定義ファイルを更新する

シリアルコードの入力が終わると、メインウインドウが表示される。「Update database」をクリックすれば手動で定義ファイルを更新できるぞ

③ 設定ウインドウを表示

「Tools」→「Preferences」と進み自動アップデートの設定を確認しよう

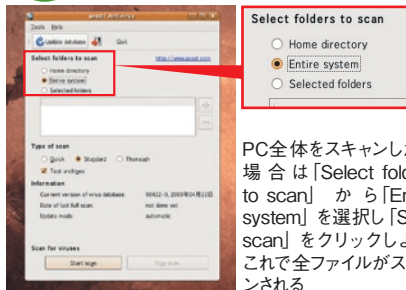
④ 自動アップデートを設定

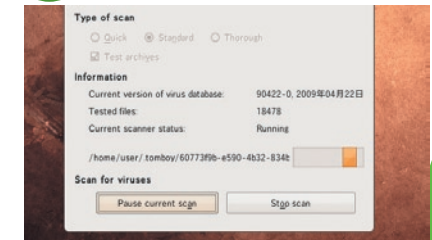
ウインドウの「Update」タブをクリックして、「Automatically」にチェックが入っていることを確認する

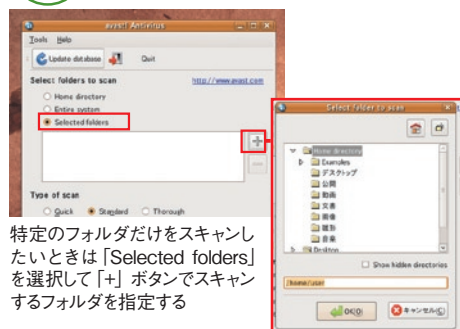
avast!でパソコンをスキャンする

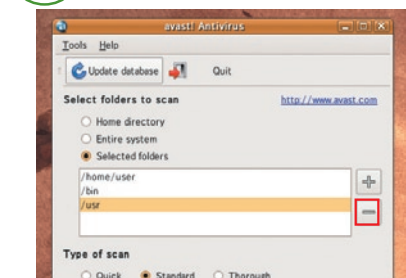
avast!で様々なスキャンを行う

自動アップデートの設定が終わったら、ウイルススキャンの方法を覚えよう。残念ながら日本語化されていないが、特に難しいことはないので心配はいらない。考えるべきことはスキャン対象をどうするかだけなので、用途に応じて選択すればそれでOKなのだ。

① PCの完全スキャンを行う

PC全体をスキャンしたい場合は「Select folders to scan」から「Entire system」を選択し「Start scan」をクリックしよう。これで全ファイルがスキャンされる

② スキャンの状況が表示される

スキャン中はウインドウ下部に進行状況が表示される。ボタンをクリックすれば一時停止や中止も可能だ

③ フォルダを指定してスキャンする

特定のフォルダだけをスキャンしたいときは「Selected folders」を選択して「+」ボタンでスキャンするフォルダを指定する

④ 複数フォルダのスキャンも可能

複数のフォルダを同時にスキャンできる。フォルダを選択して「−」ボタンでリストからの削除が可能だ

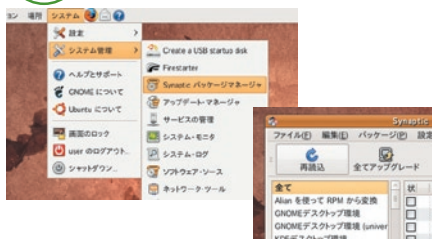
ウイルススキャンがスタート!

C●ウイルス対策はしたいけど登録は面倒➡ClamAVをインストール

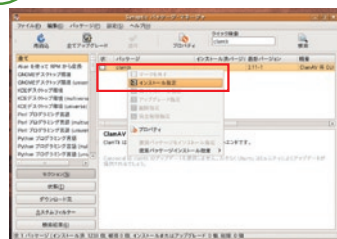
ClamAVのインストール

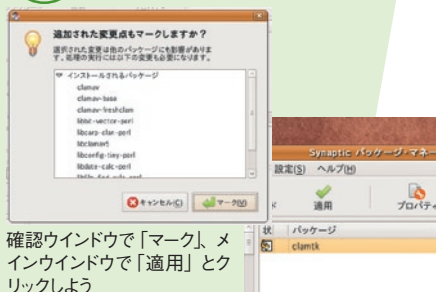
Synapticでインストール

ユーザ登録が面倒な場合はオープンソースのアンチウイルスソフト、「ClamAV」を使う手もある。ClamAVは本来コマンドベースで使うツールだが「clamtk」と組み合わせればマウス操作が可能だ。Synapticでインストールができ、「avast!」より導入が手軽なのだ。

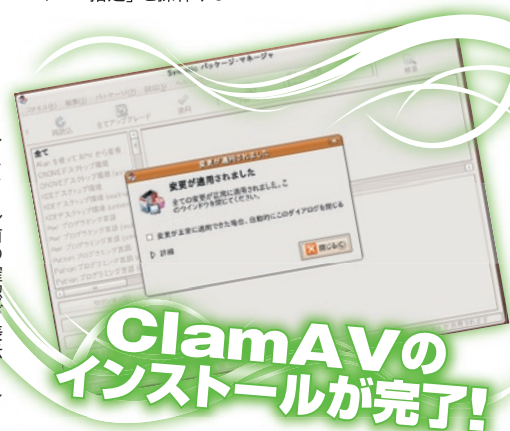
ClamAV
作者名●Sourcefire Inc.
URL●http://www.clamav.net/

① パッケージリストを更新

Synapticを起動したら、パッケージリストを最新にするため「再読込」をクリックしよう

② Clamtkを選択

「clamtk」というパッケージを検索し、右クリック→「インストール指定」と操作する

③ インストールの実行

確認ウインドウで「マーク」、メインウインドウで「適用」とクリックしよう

④ インストール開始

インストール前の確認が表示される。特に問題はないので「適用」をクリックしてインストール開始だ

アップデートと設定を行う

定義ファイル更新と設定をする

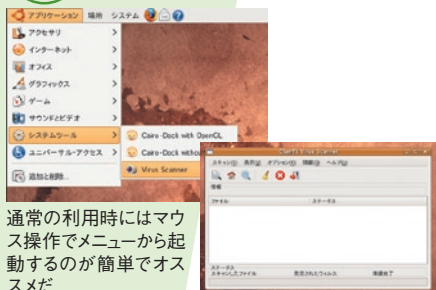
ClamAVの定義ファイルは手動でのアップデートが必要だ。アップデートには管理者権限が必要になるので、コマンド入力で起動する必要があることを覚えておいてほしい。定義ファイルのアップデートが完了したらスキャンの設定を行えば、ウイルススキャンの準備は完了だ。

① 端末でコマンドを入力

「端末」を開いてコマンドを入力しよう。パスワードを聞かれるので、入力してエンターキーを押す

② 定義ファイルをアップデート

「ヘルプ」→「パターンファイルの更新」と選択すると、自動的に定義ファイルの更新が行われる

③ メニューから起動

通常の利用時にはマウス操作でメニューから起動するのが簡単でオススメだ

④ スキャン設定を変更

「オプション」をクリックするとチェックボックスが現れるので、画面のように設定を変更しておこう

ウイルススキャンを実行する

ClamAVでウイルスをスキャン

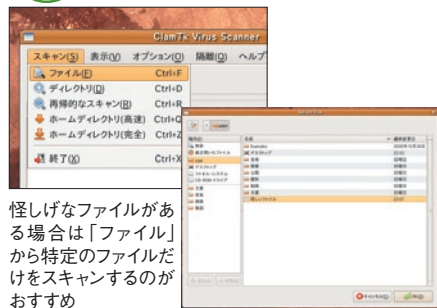
定義ファイルの更新と設定が終わったら、いよいよウイルススキャンを実行しよう。スキャンの操作自体は簡単で、「avast!」の時と同様にスキャンする場所を指定するだけでよい。ClamAVに限った話ではないが、PC全体のスキャンにはかなりの時間がかかる。場合によっては一時間以上かかる場合もあり注意が必要。

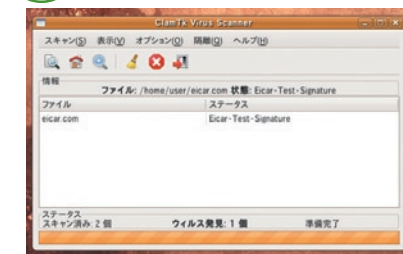
① PC全体をスキャンする

「スキャン」→「再帰的なスキャン」と選択すると、PC全体がスキャンされる

② フォルダを指定してスキャンする

「ディレクトリ」を選択し、スキャンしたいフォルダを指定することももちろん可能だ

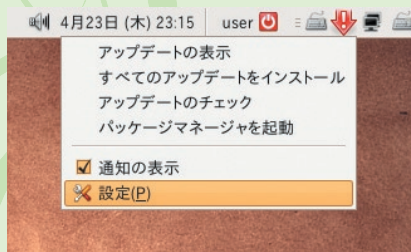
③ 特定のファイルをスキャン

怪しげなファイルがある場合は「ファイル」から特定のファイルだけをスキャンするのがおすすめ

④ ウイルスを検出

ウイルスが検出されると画面のように感染したファイルが表示される。今回はテストウイルスを使用した

アップデート通知の項目を絞り込むには

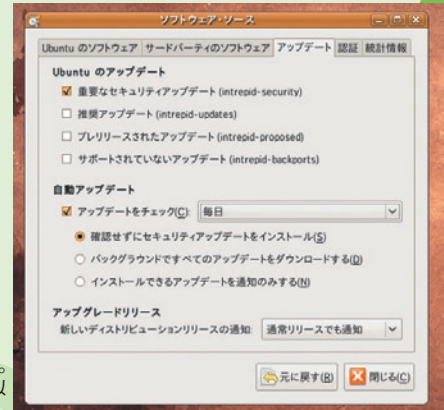
アップデート・マネージャの設定を変更する

Ubuntuはアップデートが可能な項目を自動的に検出して、メッセージを表示してくれる。だが、標準設定ではアップデート対象が多すぎてかなりの頻度でメッセージが表示されてしまい鬱陶しい。アップデート通知が頻繁に表示されてしまう場合は表示項目を絞り込んでみよう。完全に通知しないこともできるが、セキュリティアップデートも通知されなくなってしまう。必要最小限のものだけ通知するように設定するのがおすすめだ。

① 設定ウインドウを表示

通知アイコンを右クリックしてメニューから「設定」を選択。通知する項目を変更できる

② パスワードを入力

場合によってパスワードの入力を求められる。インストール時に設定したパスワードを入力

③ アップデート通知を変更

「Ubuntuのアップデート」の項目のチェックを外すと、通知される項目を絞り込むことができる。「重要なセキュリティアップデート」は最低限でもオンにしておくことを強くお勧めするが、それ以外は好みに応じて設定してしまってかまわない

Column

Can we use touch panel on LINUX?

Eee TopのタッチパネルでUbuntu

ASUSから発売された「Eee Top 1602」は、Atom搭載でタッチパネルを装備したオールインワン型デスクトップPCだ。これにUbuntu 9.04をインストールすると……？

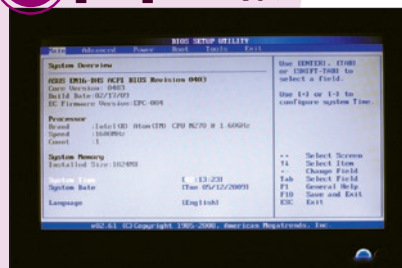
ASUS「Eee Top 1602」は、15.6インチ（1366 x 768ドット）の液晶モニタに、タッチパネルスクリーンを装備したスタイリッシュなオールインワン型のPCだ。しかも同社のネットブックをベースに開発されたので、価格も驚くほど安価だ。130万画素のWebカメラはもちろん、無線キーボードやマウスも標準装備と、至れり尽くせりである。

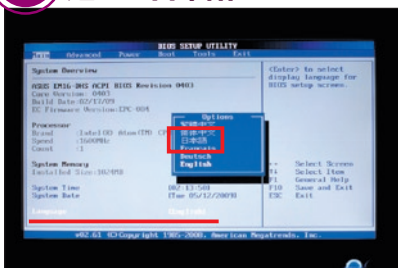
CPUはEeePCと同じIntel Atom N270（1.6GHz）で、メモリは1GBを搭載。HDDは160GBであるが、DVDドライブは非搭載だ。有線LAN・無線LANも当然装備しており、チップセットはIntel 945GSE。これらの仕様もEeePCと同じなので、Ubuntu 9.04であれば簡単に動作しそうだ。タッチパネルでUbuntuを操作できるかも？

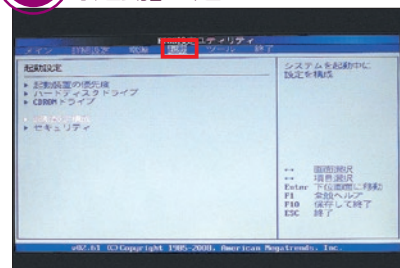
しかし、そんな当初の予想を完璧に覆して、ことは非常に困難を極めたのである。ここではそんな悪戦苦闘のレポートをお届けしよう。

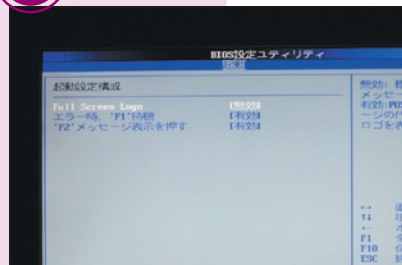
ASUS Eee Top 1602のタッチパネルでは、マウスと同じようにパソコンを操作できる。これでCompiz Fusionを操作できればおもしろいのだが

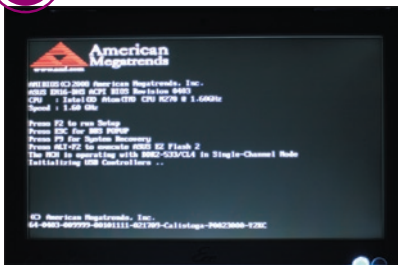
実験の前に、まずはBIOSの設定を変更しておこう

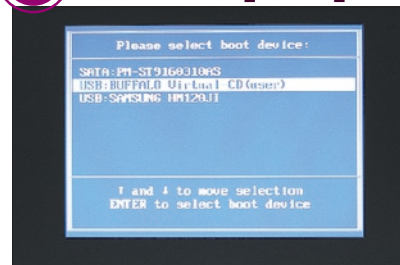
① 電源オンと同時に[F2]キーを押す

電源オン時にキーボードの[F2]キーを押すと、BIOS画面が呼び出される。マウスは使えないのでカーソルキーで操作

② 「Language」を選ぶと日本語になる

BIOSは英語表示が普通だが、Eee TopのBIOSは日本語表示も可能。初心者の場合は日本語設定へ変更しよう

③ 日本語表示になったら「起動」を選ぶ

起動オプションの変更を行い、外部接続のDVDやHDDの起動順位を設定しておこう

④ 「Full Screen Logo」を「無効」にする

「Full Screen Logo」を無効にして[Enter]を押す。[F10]キーでBIOSの設定変更が保存され、自動で再起動する

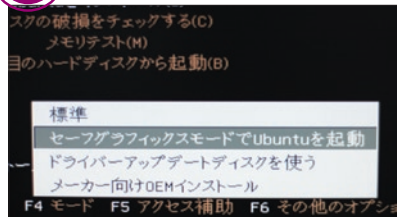
⑤ CD/DVDドライブをUSBポートへ接続

POST画面表示前にUbuntu 9.04 CDをDVDドライブへ装着し、Eee TopのUSBポートへ接続しておこう

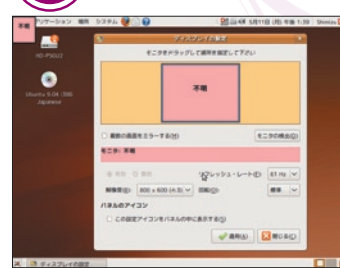
⑥ POST画面が表示されたら[Esc]キー

[Esc]でBIOSのブートマネージャが表示されるので、USB接続したDVDドライブからUbuntu 9.04 CDを起動する

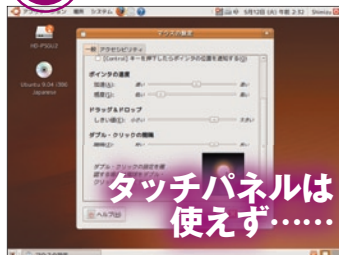
Eee TopへUbuntu 9.04をインストールする

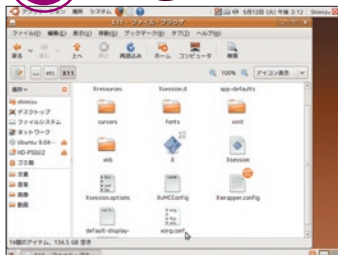
① Ubuntuの起動画面が表示される

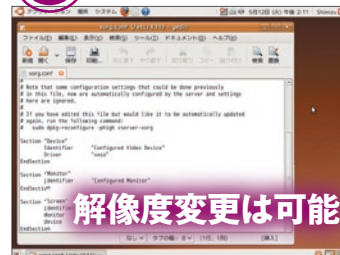
Ubuntuが起動しても、LiveCDモードやインストールを選んで続行してはいけない。画面が表示されなくなる

② 必ず[F4]キーを押すこと

[F4]キーを押し、「セーフグラフィックスモードでUbuntuを起動」を選択。これで画面表示がおかしくならない

③ Ubuntu 9.04がSVGAで起動

UbuntuはSVGA表示で起動するが、この状態ではモニタやドライバは自動認識されず、無線LANも使えない

④ タッチパネルはクリック動作のみ対応

肝心のタッチパネルは不完全な動作で、タッチすると何故かクリック動作だけは行えるという状態に。ドライバの問題か？

⑤ 「X11」フォルダ内のxorg.confを開く

ディスプレイの解像度変更については「xorg.conf」というファイルの編集が必要。ファイルブラウザを開いて/etc/X11/を開く

⑥ xorg.confをエディタで編集

xorg.confをエディタで開いたら、「Intel 945GSE」ドライバを登録する。表示可能な解像度に1366×768も追加しておく

Eee TopでUbuntu 9.04 Netbook Remixを試してみる

① Eee PC用に作ったmicroSDで起動

Ubuntu 9.04 Netbook RemixをmicroSD+USBから起動してみるが、やはり[F4]オプションの設定は必要だった

② Netbook Remixは動作するが極めて遅い

SVGAモードで動作するが非常に画面が重く、描画書き換えも二重表示になってしまう

③ タッチスクリーンのユーティリティも起動せず

Netbook Remixにはタッチスクリーン用ツールがあるので、これを使ってみるが、「ドライバが無い」とのエラーが表示され起動しない

タッチスクリーンが使えず残念な結果

タッチスクリーンこそ使えないが、EeePCと同様WebCamなどちゃんと動作する。普通のデスクトップ機としては問題ないのだが

結果的には、残念ながら現時点のUbuntu 9.04では、タッチスクリーンのドライバが完璧には動作しなかった。ドライバが正式にサポートするにはまだ時間が必要なようだ。とはいえ、今後さらに普及が予想されるタッチパネル型ディスプレイなので、近い将来には必ずサポートされるはず。そのときに改めて検証してみたい。

青LEDのイルミネーションが綺麗なEee Top 1602。タッチスクリーンでUbuntuを操作できる日が、早く訪れて欲しいものだ